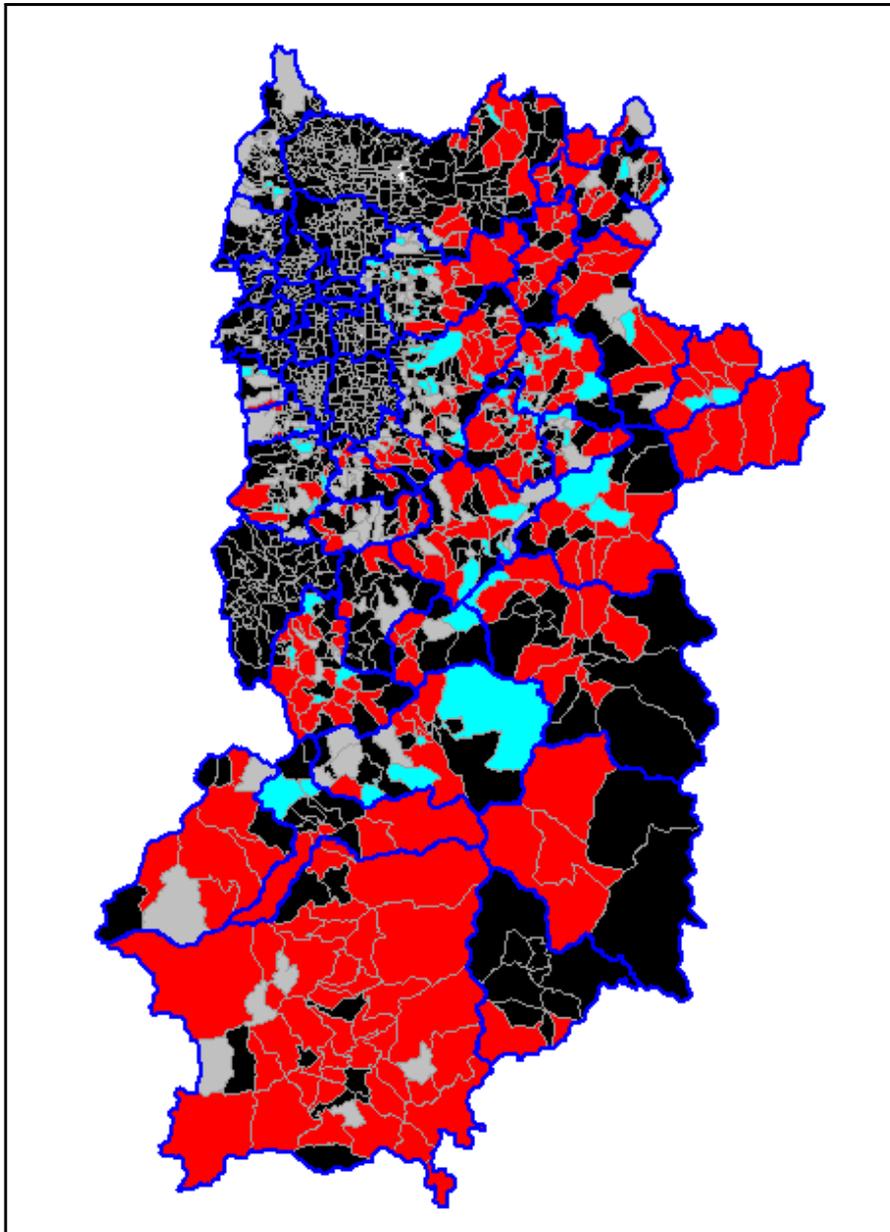


農業・林業集落アンケート調査によるノウサギの生息状況・被害状況 (平成23年度)

1. 平成23年度 林業集落アンケート調査によるノウサギの分布



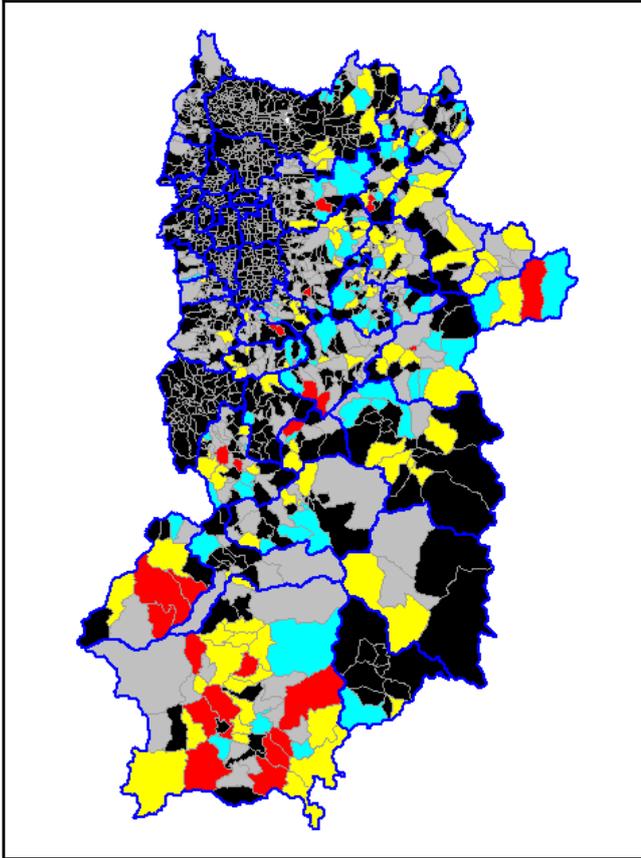
右図は、平成23年度の農林業集落アンケート調査による、ノウサギの分布である。

林業集落でノウサギが「いる」と回答があった場合に「いる」と回答があった場合に「分布している」とした。回収無しには既に人が住んでいない集落も含まれている。

平成23年度	
■ いる	267集落
■ いない	64集落
■ 回答無し	146集落
■ 回収無し	1331集落
全	1808集落

凡例 図中 青線 市町村界 市町村界内側の線 大字・地区界
 なお、この市町村界、大字・地区界の凡例は次項以降の図も同様である

2. ノウサギの山林・奥地森林での出没(平成23年度)



右図は平成23年度の林業集落アンケートによる、ノウサギの山林・奥地森林での出没状況である。

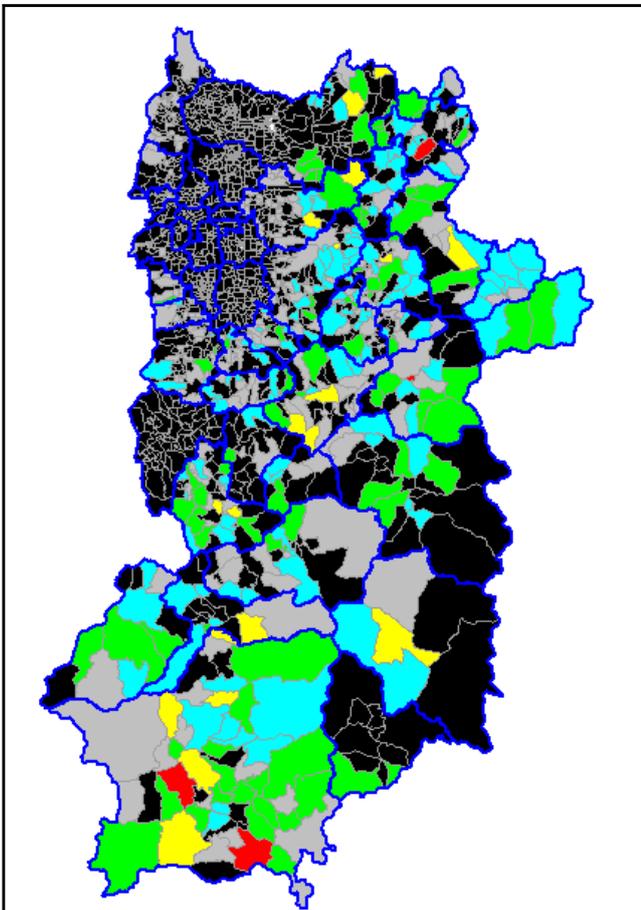
ノウサギが「いる」と回答があり、かつ本設問の回答があった203集落の内訳は下記の通りである。

平成23年度は「よく見る」との回答が約11%、たまに見るが約52%、あまり見ないが約37%であった。

・平成23年度

よく見る	23集落(11.3%)
たまに見る	106集落(52.2%)
あまり見ない	74集落(36.5%)
回答数	203集落

3. ノウサギの林業被害の大きさ(平成23年度)



右図は平成23年度の林業集落アンケートによる、ノウサギの林業被害の大きさの意識調査の結果である。ノウサギが「いる」と回答があり、かつ本設問に回答のあった集落の内訳は下記の通りである。

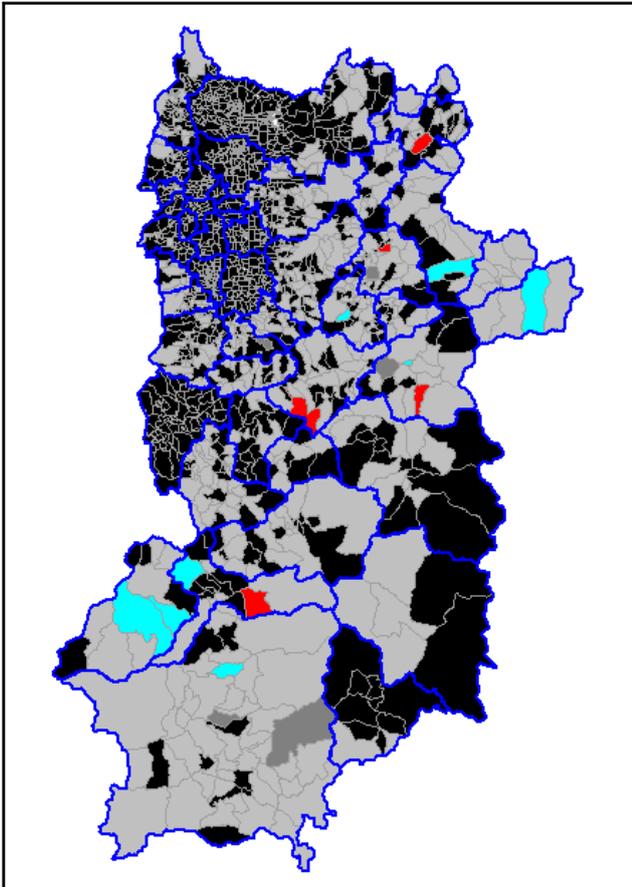
ノウサギの林業被害は、「軽微」なものが約36%と最も多かった。「深刻」は約2%とほとんど無かったが、「大きい」は約7%であった。

かつてはノウサギによる林業被害、特に新植地での摂食被害は非常に大きいものであったが、近年は新植地は少なく、ノウサギの被害も少なくなってきているが、本調査もそのような状況を反映していた。

・平成23年度

ほとんど無い	134集落(54.7%)
軽微	89集落(36.3%)
大きい(生産量の30%未満)	18集落(7.3%)
深刻(生産量の30%以上)	4集落(1.6%)
回答数	245集落

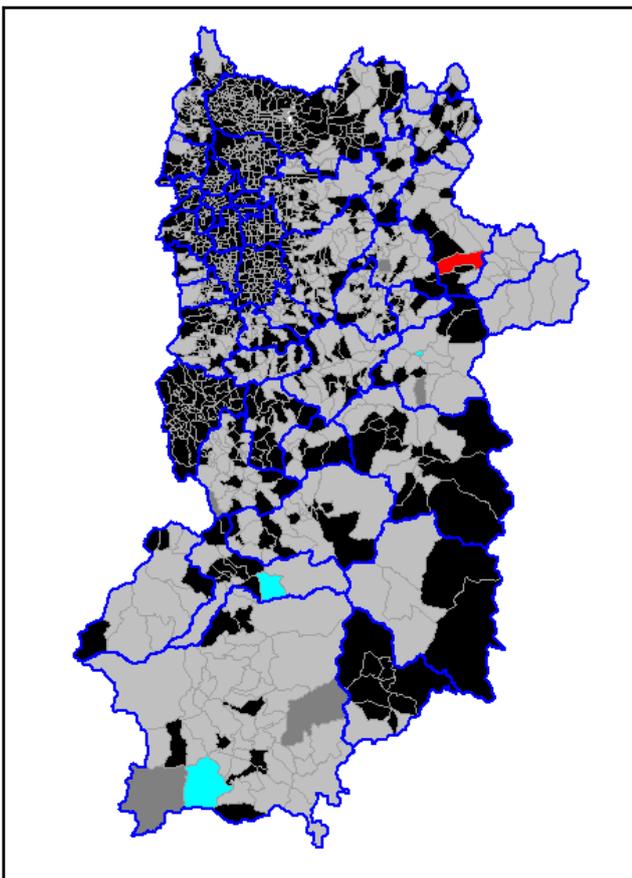
4. ノウサギ被害対策 防護柵(侵入防止柵)の効果(林地・平成23年度)



右図は平成23年度の林業集落アンケートによる、ノウサギの林業被害対策の、防護柵(侵入防止柵)の設置による効果の意識調査の結果である
 ノウサギが「いる」と回答があり、かつ本設問に回答のあったのは14集落からであった。

・平成23年度	
■効果があった	6集落
■効果がなかった	8集落
回答数	14集落

5. ノウサギの被害対策 有害捕獲の効果(林地・平成23年度)



右図は平成23年度の林業集落アンケートによる、林業被害対策の、有害捕獲を実施した効果の意識調査の結果である。
 本設問へ回答は4集落からのみであった。

・平成23年度	
■効果があった	1集落
■効果がなかった	3集落
回答数	4集落